

ほんのしるべ

# 書標

2022.  
5月号

2022年5月5日発行(毎月1回5日発行)  
通巻521号 昭和61年7月15日第三種郵便物認可



## リトアニア・ヴィリニユス ヴィリニユス大学・アカデミー書店

ノセ事務所 能勢 仁



ヴィリニユスに行ったらまず寄ってみたいと思っていた所は、一五七九年創立の歴史あるヴィリニユス大学である。中庭が十二もあるから、構内の広さは想像できよう。大学内部にあるアカデミー書店も凄い。骨董品のような書店に圧倒された。朝顔のような円形の天井も珍しいが、そこに描かれた絵画が歴史を物語っている。こんな書店は世界でもここだけであろう。柱に描かれている学者、歴代学長等の肖像画も年代を感じる。店は大きくはない。それでも長方形の三十坪の書店である。若いお嬢さんが二人、レジを受けて持っている。システムは近代的なP O

Sが導入されている。入口にはセンサーも装備されている。並んでいる本は古々しい年代書籍が半分、今様書籍が半分である。本の他に絵葉書、ヴィリニユスガイドブック、葉、Tシャツ、小物雑貨類も陳列されていた。大学自当の観光客が結構立ち寄るとのことである。中庭から書店の看板、シヨウウィンドウが目視できるのでアプローチし易いのであろう。中世の図書館の中にいる雰囲気になってしまった。天皇皇后両陛下（現上皇・上皇后両陛下）が首都・ヴィリニユスを訪問された時、大学にもお立ち寄りになったとお嬢さんが言っていた。

やがて、木々のあいまに、なにか白く  
 かがやくのが、ほくの目にはいりました。  
 それは、機織りのおばさんの家をとりに  
 いているリンゴの花でした。おとぎ話の  
 家のような、その家をとりにまぐリンゴの  
 木々には、ふんわりと雪がつもったまじ  
 いちめんにリンゴの花が咲きほこって  
 います。家のなかでは、トンカラトンカラ  
 音がきこえ、そしてミリマニがいました。  
 「うちのかあさんが、機を織っている。」

リンドグリーン作・大塚勇三訳

『ミオよわたしのミオ』（岩波書店）より



# もくじ

世界の本屋さん 124

「書標」歳時記△5月▽

著書を読む(60) 『もしも鳥と話せたら』 パズル 2

書標・書評 『あの図書館の彼女たち』 ほか 4

特集 施行75年目の現在地

日本国憲法の普遍性と特異点

NOWAR — 戦争は何も解決しない —

今月のおすすめ

社会科学	16	コンピュータ	18
自然科学	19	医学書	20
人文科学	21	文学・芸芸	22
文庫・新書	23	芸術	24
実用書	25	地図・旅行書	25
語学・辞典	26	児童書	27
読者から			
インフォメーション	28		
本屋くらばなし		矢面に立つ言葉	

※表示価格はすべて税込み価格です。

## 『もしも鳥と話せたら』

ペズル

人から「こうしたほうがいいよ」と指摘されると、とっさに「でも〇〇だから」と言いわけしたくなることありませんか？ ビジネス書に「私はこうやって成功した」「こう考えたら人生はうまくいく」と書いてあると、「すごいなあ」「なるほどなあ」と思いつつ、「でもここは違うよなあ」なーんてアラ探しをしちゃうことありませんか？ 私はあります。ただのねたみです。そんな自分がイヤで、なんでそうしちゃうのかを考えてみました。理由は大きく三つありました。

## 一 相手の話が正しいから

あれは小学五年生の頃のこと。宿題をやらずに原っぱで野球をしてたら買い物婦りの母に見つかり、「宿題してから遊びなさい！」って怒られたんです。すでに反抗期に突入していた私は、友達が見てる前でこう言い返しました。

「……んだよお……」（弱々しい声）

そう、私には正当な反論はなくて、「相手（母）が正しいけどなんかイヤ」なだけだったんです。人の意見に反射的に反論したり、ビジネス書のアラ探しするのって、これに似た感情もかなあつた。

## 二 相手の話が楽しくないから

「正しいだけだと楽しくない！」

時々そんな気持ちになることがあります。指摘、成功談、教訓って、どんなに理論的に説明されても、いや、理論的であればあるほど楽しくないんです。小学生の頃、全校集会で校長先生が何を話してたかなんて覚えてないじゃないですか。それも「正しいけど楽しくない話」だったのかもなあ。あ、でも中学生の頃、校長先生が全校集会の終盤、話のまとめで「Time is money」と言うべきところを「This is money」と言い間違えて、館内が爆笑に包まれたのは今でもたまに思い出してにんまりします。正しくないけど楽しい話は記憶に残るんだよなあ。

## 三 心が老いてきたから

年齢を重ねれば重ねるほど、経験（慣れ）と自信（過信）が邪魔をして、人の意見を素直に聞けなくなってる気がします。「相手より自分が正しい」と正当化して、今までの自分を貫いちゃうんです。「貫く」というか、ただの頑固。心にあるのは「意志」ではなく「意地」。歳とともに体も頭も心もかたくなるんだなあって実感してます。子供の頃って、イヤでも大人に従わな

きやいけないじゃないですか。だから相手を受け入れるやわらかい心を保てる気がするんです（そもそも成長期だからやわらかい）。でも、指摘してくれる人が減り、自分を変えようとすると熱量も減ってくると、今までの生き方がガラガラと続いて、いつの間にかカッチカチに……ほんと怖いですが、老い。

あれ？ 結局、三が諸悪の根源でしたね。そういえば会社員時代の私、直属の上司から「ダメ頑固」って言われたことがあります。「頑固」の時点でダメなのに、さらに「ダメ」を上のにせるなんてよっぽどですよ。あ、でも「ダメ頑固」って「頭痛が痛い」に近くないか!?（ついまたアラ探し）

人の意見を素直に聞けない。でも……できることなら変わりたい。そんなモヤモヤを抱えていたある朝、ふとんの中でムニヤムニヤしていた私の頭に不思議な考えが浮かびました。

「そもそも、人間に指摘されるから反発したくなるのかも」  
その五秒後、私はガバツと起きて企画がひらめいたのです。

「動物に指摘されたら、素直に言うこと聞けるかも！」  
そんな本を作れば、書きながら自分の心が若返るかもしれない。なにより話し相手は動物なら……なんか楽しい！

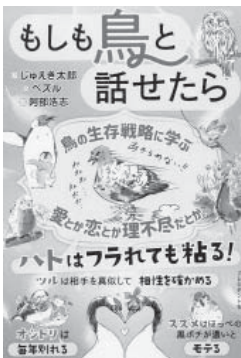
こうして生まれたのが『もしも鳥と話せたら』です。この本の構成は、鳥と人間の会話形式。鳥たちが自分の生態的特徴を紹介しながら、教訓めいたことを楽しみに語ります。時にはまったく役に立たないことも得意げに語ったりします。

たとえば、華やかなクジヤクが「見た目で相手を判断するのは生き物の本能だから」とオラついたり、カカボがニコニコしながら「なんでも一人でどうにかできちゃう人は、逆に大切に

されにくいよ」なんてキツイことを言ったり、カモがネギをしょって去っていったり、オシドリが「相手に対して好印象しかない時って、まだ相手をよく知らない証」と達観したり、突然キジが桃太郎といっしょに現れたり、カラスが「自分が思う自分自身の欠点と、相手が自分に対して抱く欠点は意外と違ってるんだね」と反省したり、カッコウが「きらい」って「みらい」だから」と意味不明なことを言い放ったり……。

「それぞれの発言と、鳥の特徴にどんな関係があるの?」と思っただ方は、ぜひ丸善ジュンク堂書店さんでチェックしていただけたらうれしいです（急に宣伝感）。また、もし面白かったら『もしも虫と話せたら』『もしもカメと話せたら』というシリーズもあるの、そちらもどうかよろしくお願ひいたします。

今後も続編を出していきたいと思っておりますが、出ないかもされません。その時は「本が売れずにシリーズが終了したんだな」と鋭く察するのではなく、「ペズルの心が若返って、人間以外と話す必要がなくなったんだな」とほほえんでいただければ幸いです。



『もしも鳥と話せたら』  
プレジデント社・1,540円



## 『あの図書館の彼女たち』

ジャネット・スケスリン・チャールズ著

高山祥子訳 東京創元社・二四二〇円

一九三九年パリで、アメリカ図書館は夢を見られる場所と訴える二十歳の女性オデイルが、採用試験に合格し司書として働くことになった。頼れる女性館長や本を愛するスタッフ、そして個性豊かな登録者たちに囲まれて充実した毎日を送っていた。

しかし世界では第二次世界大戦が起り、ドイツ軍がパリに侵攻を始めると、生活の全てが一変する。ユダヤ人の利用者に危機が訪れる。もはや戦争は歴史の中だけではなく、目の前で起きている。空爆を受け瓦礫と化した建物、泣きながら逃げまどう人々、そんな場面が想像ではなく現実として読む者の頭に映し出される。

それでも彼女たちは命を懸けて図書館を守り続け、生きるために必要なものとして本を人々に届ける。これほどまでに強大な理不尽に対して、信念を守り続

けるその勇気が自分にあるだろうか。

(郡)

## 『スマートな悪 技術と暴力について』

戸谷洋志著

講談社・一五四〇円

第5期科学技術基本計画が目指す「Society5.0」＝「スマート社会」では、これまで個別に取り組まれていた各分野の課題が、統合的なサイバー空間のもとで処理され、トップダウン型に「解決」されるという。その時、フィジカル空間（現実）は、サイバー空間の決定に抵抗することができず、ひたすら調整の素材として扱われる。そして、制御される人間自身は自分が自由であると思いついてる状態が好ましいとされる。「シンギュラリティ」を迎えAIに圧倒的な能力差をつけられる前に、人間は自ら進んでシステムの「最適化」に身を任せようとしているようにも見える。

面白いのは、「スマート」が「痛み」を意味する言葉を語源としていることだ。痛みによって人間は、他の感覚、思考、関係から遮断される。それは、スマホ一つに様々な機能が搭載され、他の道

具を持たなくて済むという状態とパラレルである。スマートさが余計なものを排除し、人間を受動的することは、語源である「痛み」の意味を反響させているのだ。

その結果人間が自由を失い（差し出し）責任の主体という性格を喪失していくさまは、「ユダヤ人殲滅システム」に（自覚的な悪意なく）加担したアイヒマンの「陳腐な悪」や、現代の満員電車における無意識の暴力と同質とされる。

だが、スマートなシステムの遮断の力は強力で、逃れることは困難であり、また得策でもない。戸谷が提唱するのは、システムの外部から招来したガジェットによって他のシステムと結び、人間間もガジェット的に他のシステムに開かれて、一つの閉鎖的なシステムによって雁字搦めにされないことなのである。

(フ)

## 『毛布』

あなたをくるんでくれるもの

安達茉莉子著

玄光社・二四二〇円

先の見えない世の中や、ふとした瞬間に気づく孤独、誰かを傷つけてしまった

／傷つけられたと感じたとき、どうしようもない辛さを包んでくれるものが人それぞれにあるはず。使い慣れた毛布にくるまって眠るとき、幼い頃愛情に包まれて眠った安心する記憶がよみがえり、穏やかな気持ちになれたら幸せだ。そんな毛布のようなものは、誰かが自分を気にかけてくれた言葉だったり、視線だったり、ふるまいだったりする。本書は、そんな毛布のような体験が綴られているエッセイ集だ。

安達さんの作品と出会ったのは、ある本屋さんで目にしたZINE（個人が自分の書きたいことを自由に綴った小冊子であり、様々な内容のものが作られていた）だった。『何か大切なものをなくしてそして立ち上がった頃の人へ』というタイトルのこのZINEは、AとZで始まる二十六の詩とイラストで構成されている。その言葉と絵の優しさ、切実さが突き刺さる作品だった。

誰もが大事な人や物を失ったことがあるだろう。亡くなって会えない人もいれば、決定的な何かがあつて今は傍にいない人もいるだろう。そんな記憶がよみがえってきて、悲しいのに懐かしい気持ち

になる、大事な一冊になった。この作品を書いた時の話や、会社員時代のこと、留学をしていたときのこと、創作をはじめてぶつかった悩み、いろいろな人との出会いが本書では書かれているが、今のこの世界で生きていたら感じる息苦しさに共感する人も多いだろうし、安達さんのまなざしに救われる人もいるだろう。必要とする人に、この「毛布」のような一冊が届くようにと願う。（齊）

### 『オウムアムアは地球人を見たか？ 異星文明との遭遇』

アヴィ・ロープ著

松井信彦訳 早川書房・二七五〇円

二〇一七年、高速で飛来した天体が驚異的な加速で太陽系を離れていった。単なる彗星だと思われていたそれは観測史上初の恒星間天体だったことが判明。しかも我々の物理常識にそぐわない、科学的な説明が難しい代物だった。ある者は水素の塊だという。しかしそれなら太陽に接近した段階で消失する。ガス噴出彗星だという者もある。だが移動速度や美しい軌道の説明がつかない。学者はこ

理があつた。この天体は「斥候」を意味するオウムアムアと名付けられた。

哲学の徒であつた著者は徴兵をきつかけにプラズマ物理学で博士号を取得。その後天体物理学に方向転換しハーバードで天文学科長を務めた、いうなれば天文学である程度の地位にある人物。そんな「科学者」が冗談ではなく、地球外生命体が「いる」という「仮説」を支持する証拠となりえるのがオウムアムアだという論文を発表した。科学的好奇心を持って臨めば新たな証拠や発見があるだろうという見地で唱えられたこの説に、学会も世間も大騒ぎとなった。しかし仮説を立て証拠で裏付けるのが科学の作法だ。反証を待つ著者は異説が学問を健全に導くと言う。専門家としての高慢さが時として科学の歩みを遅らせる、とも言う。だが研究者は自説が誤っていたことを恐れるようになった。やりたかつた研究より、予算が取れる研究や終身在職権に結び付く研究をするようになった。著者はこんな現状を憂いている。（煮）

施行75年目の現在地



# 日本国憲法の 普遍性と特異点

みなさんは「不磨の大典」という言葉をご存じでしょうか。これは一八九〇（明治二十三年）年に施行された東アジア初の近代憲法、大日本帝国憲法（明治憲法）のことを、磨かずとも自然に光り輝く玉になぞらえた美称で、戦後においても、ある時期までは誰もが知る一般的な表現でした。しかし、一九四七（昭和二十二年）の失効まで五十六年以上続いた明治憲法を遙かに超え、日本国憲法は今年の五月三日で施行七十五周年を迎えます。

じつは七十五年もの長きにわたり、一文字も改正されることがない憲法典は、世界的に例がありません。それは日本国憲法もまた磨かずとも光る玉（完全無欠）であることを意味するのでしょうか。今まで改正の必要がなかったからといって、これからも変える必要はないと言えるのでしょうか。ロシアによるウクライナ侵略は、戦後どころか近代以降の世界のパラダイムを変えました。今回の「愛書家の楽園」は、厳しい国際環境と対峙する日本国憲法の現在地を見つめ直すことで、私たちと憲法の関係を今一度考える契機としてはどうか、というご提案です。

日本国憲法の精神に触れてみようと思いついたとき、九州大学教授・南野森さんが監修した『10歳から読める・わかるいちばんやさしい日本国憲法』（東京書店・一四〇八円）はまずお勧めしたい入門書です。絵本のような体裁にだまされたいけません。小学校六年生が独りで読めることを目指した平易な語り口は、だからこそ誤解や曲解の余地がなく、ストレートに胸に落ちます。



『英文対訳  
日本国憲法』

条文や論点が絞り込まれた子ども向けの内容ではなく、憲法そのものに触れたというかたには『英文対訳日本国憲法』（ちくま学芸文庫・五九四円）がよいでしょう。実際の憲法の条文は、今となっては少しお堅い文章かもしれませんが、やや込み入った表現の日本語を、シンプルかつ直截な構造の英語と対比させるのは



悪くないアイデアです。もともと第二次世界大戦の敗戦後、占領軍によって起草された出自を持つ日本国憲法を英語で読んでみようとする試みはいくつも行われてきました。

日本国憲法の施行と同時期に発行され、当時の中学一年社会科の副読本として配布された「あたらしい憲法のはなし」や、同時期に全国の世帯に配られた冊子「新しい憲法 明るい生活」などをまとめた古典的名著、高見勝利さんの『あたらしい憲法のはなし』（岩波現代文庫・九九〇円）にも英文の対訳が収められています。本書に収録された三本のテキストは憲法発布当時の社会の空気を鮮やかに反映しており、戦争から解放され新しい時代を迎えたことへの無条件の喜びが匂い立ちます。初めてこの憲法を見た人たちには、条文中の「戦争放棄」の文字が光り輝いて感じられた、というの偽らざる心境だったに違いありません。

日本国憲法が出来るまでの道のりをめぐっては、その制定に当事者として深く関わり、長らく慶應義塾大学法学部で憲法学を教えた大友一郎さんの講義ノート

があります。大友先生の授業を受けた庄司克宏さんが編んだ『日本国憲法の制定過程』（千倉書房・二七五〇円）をひもとき、憲法について議論を始める前に、なぜ日本国憲法が現在の姿になったのかを踏まえておきたいところです。



『日本国憲法の制定過程』

日本国憲法の特徴や論点、直面する問題や時代ごとに受けてきた挑戦については、ガイドとなる良書が数多く、どれを選ぶか迷ってしまいます。定評のあるところでは伊藤真さんの『伊藤真の憲法入門（第六版）』（日本評論社・一八七〇円）や、渋谷秀樹さんの『憲法を読み解く』（有斐閣・一九八〇円）、刊行から時間は経っていますが小室直樹さんの『日本人のための憲法原論』（集英社インターナショナル・一九八〇円）などが多様な憲法認識を詳述しており参考になります。

ただし近年、憲法学を取り巻く状況はずいぶんと変わりました。これまでの日本の憲法学は独りよがりだったのではないかと、国際法の観点から厳しく追及している篠田英朗さんは「戦後日本憲法学批判」というサブタイトルを持つ『ほんとうの憲法』（ちくま新書・九四六円）を著しており、本書はこの間の変遷を整理するのに非常に有効です。議論の行方を追うためには、それぞれの論者の拠って立つところを注意深く見極めなくてはならず、そのことが憲法をめぐる議論、とりわけ憲法改正論議を見通しの悪いものになっている点は否めません。篠田さんの新書の対角に、曾我部真裕さんたちがまとめた『憲法論点教室（第2版）』（日本評論社・二四二〇円）や、井上ひさしさんの『井上ひさしの憲法指南』（岩波現代文庫・一一二〇円）を置くことで、論点とその可否に対する自分なりの考えをまとめる準備が整うのではないでしょうか。

ここしばらく憲法を議論する際、積極的に用いられているのが「比較」という切り口です。普段、憲法といわれるとまずは日本国憲法しか頭に浮かびません

が、これを世界各国の憲法と比較することで、解釈を広げていこうというわけです。百聞は一見にしかず、まずは君塚正臣さんの編著『比較憲法』（ミネルヴァ書房・三八五〇円）や辻村みよ子さんの『比較憲法（第3版）』（岩波書店・三四一〇円）を覗いて、憲法を比較するとはどういうことなのかを感じ取ってください。様々な国々の憲法史や政体、統治機構にバランス良く触れられていて、憲法と国家の固有の関係性が浮かび上がるようになっていきます。

いずれを手にする場合でも、傍らに初宿正典さんたちが編集した『新解説 世界憲法集（第5版）』（三省堂・二九七〇円）を置くことをお忘れなく。英米は言うに及ばず、カナダ、イタリヤ、ドイツ、フランス、スイス、ロシア、中国、韓国など、独自の事情や都合を抱える各国の憲法を並べて読む機会は滅多にありません。日本国憲法前文などのイメージに慣れた日本人には、そもそも前文があるかどうかといった議論さえ、かなり新鮮なはずで、なるほど憲法の比較にはこんな面白さがあるのか、と納得していただくことでしょう。

さて、比較というツールを手には、いよいよ憲法の改正、改憲問題に一步踏み出そうとするなら、前出の辻村さんによる論点整理をまとめた『比較のなかの改憲論』（岩波新書・八三六円）と、各分野から十六人の専門家たちが集まり世界七カ国における憲法改正の多彩な動きを描き出した『憲法改正』の比較政治学（弘文堂・五〇六〇円）が道案内としてお勧めです。でも、もしかすると、憲法改正なんてそもそも良いことではないような気がする、と立ちすくむかたがいるかもしれません。そんなときには阿川尚之さんの『憲法改正とは何か』（新潮選書・一五四〇円）という処方箋があります。三十回近い改正を経たアメリカ合衆国憲法によって、彼の国の立憲主義がどのように進展してきたかを、米国の建国史や政治動態に明るい碩学が丁寧に教えてくれます。「憲法を大事にすることの意味を考え直し、その方法の多様性を発見する良い機会になるはずですよ」。

冒頭で、世界が大きく変わる今こそ、日本国憲法の在り方を考える機会、と書きましたが、世の中には普遍的な価値があり、それを守る礎としての日本国憲法

という考え方にも説得力があります。そこで、何がどう変わってきたのかを今一度整理しておきましょう。御厨貴さんと牧原出さんの『日本政治史講義』（有斐閣・三五二〇円）は明治から令和に至る日本政治のダイナミズムを、そこに関わった人々の肉声も交えながら描いた名作で、とりわけ戦後政治を振り返る上で客観的な視点を提供してくれます。



『9条の戦後史』

日本国憲法の中でも、このほか争点となりがちな第九条については加藤典洋さんの『9条の戦後史』（ちくま新書・一四三〇円）と細谷雄一さんの『戦後史の解放Ⅱ 自主独立とは何か』の前編「敗戦から日本国憲法制定まで」と後編「冷戦開始から講和条約まで」（ともに新潮選書・一四三〇円）の併読をお願いします。そして日本で行われた様々な議論の背後

に、どのような世界の変容があったのかを東京大学先端科学技術研究センターの発刊した『ROLES REVIEW Vol.1』で最終確認しましょう。ROLESは、論壇やSNSで活躍する池内恵さんが立ち上げたシンクタンクで、本書には気鋭の研究者たちがテクノロジ、安全保障、各国事情、秩序や規範の問題に至る幅広いテーマの最新論稿を寄稿しています。

憲法改正に忌避感がつきまとうのは、何を変えるのか、と同時に、誰がどう変えるのか、という問題に向きあう必要があるからでしょう。それは政権や与党への信認、国際状況と国内状況の微妙なバランスングによって左右されます。改憲の是非を問う論議は二〇一五年の安保法制問題以降くすぶり続けていますが、阪田雅裕さんの編著『政府の憲法解釈』（有斐閣・三三三〇円）や木村草太さんの『自衛隊と憲法』（晶文社・一五九五円）、長谷部恭男さん、石田勇治さんの『ナチスの「手口」と緊急事態条項』（集英社新書・九四六円）、樋口陽一さん、小林節さんの『憲法改正の「真実」』（集英社新書・九四六円）のように、どちらかと言えば政権や与党の用意する改正案への不信に

寄りがちです。それは、無謀な戦争の末に獲得した民主主義国家のたがが外れぬよう、厳しく政治を監視する上で大切な姿勢と言えます。



『日本憲法史』

それでも、近代以降、世界が歩んできた試行錯誤が無下にされ、揺るぎない価値として奉じてきた民主主義が理不尽や暴力の前に手をこまねく現在、なお日本国憲法はこのままでいいのか、と問いかけたいのです。まもなく刊行される『日本国憲法の普遍と特異』（千倉書房・三五二〇円）の著者ケネス・マツケルウェインさんは同書において、世界規模の比較を用い、七十五年間一文字も変更されなかったのではない私たちの憲法の意義と不思議を探りました。そこから見えてきたのは、世界に例を見ない柔軟性と潤沢な権利保障という普遍性により、むしろグ

ローバルスタンダードが日本国憲法に近寄ってきているという驚きの事実だったのです。

ではケネスさんは、なぜ、いま、何を、どう変えるべきだと考えているのか。そこには日本国憲法の特異性が抱える問題点がありました。恒藤恭『憲法問題』（講談社学術文庫・一〇二二円）、大石眞『日本憲法史』（講談社学術文庫・一五一八円）、佐々木惣一『立憲非立憲』（講談社学術文庫・一一〇〇円）といった、日本国憲法の意義に迫った大家たちの古典的名著と合わせて最新の研究の知見に触れ、施行七十五年目の「日本国憲法の現在地」とこれからの考える手がかりにしていただければ幸いです。

（千倉書房 神谷竜介）

\*愛書家の楽園・特集「施行七十五年目の現在地——日本国憲法の普遍性と特異点」で紹介した書籍は、ジュンク堂書店池袋本店一階エレベータ前、三宮店五階、高松店レジ前と福岡店一階、丸善京都本店地下二階と岐阜店入口にて、五月十日〜六月九日までフェア展開中です。



ロシアによるウクライナ侵攻は世界に衝撃を与えましたが、第二次世界大戦以降だけでも、ベトナム戦争、湾岸戦争、イラク戦争など何度も戦争が起こっています。地域紛争を含めると数え切れないほどです。戦争や紛争にはそれぞれ大義名分があるのでしよう。けれどもどんな大義名分があったとしても、一度戦争が起こってしまえば、人の命も暮らしも蹂躪され奪われてしまいます。

一方で、戦争は必要悪であるという考えもあります。戦争はよくないけれど、国際政治の中では戦争は外交手段の一つで、必要なものであるという考えです。

### 戦争とは

戦争に反対の声を上げたときに戦争の必要性を免罪符にされたら、どう反論すればいいのでしょうか。感情に訴えても必要性には勝てません。感情的ではなく理論的な反論をするために、まずは戦争を知ることから始めましょう。

藤原帰一『戦争の条件』（集英社新書・八八〇円）

暴力が国際政治の現実であることは否定できないし、暴力に頼ることなく戦争

を回避することも極めて難しい。しかし、その現実の中には常に複数の選択が潜んでいることも見逃してはならない。「戦争の条件」には、戦争を避けるための条件とそれでも戦争に訴えざるをえない時に満たすべき条件という二つの意味が込められている。暴力への依存を最小限に留めながら平和を実現する方法を具体的に条件の中で探していく。国際政治学には、単純明快な答えは存在しないが考え続けなければならないという著者の考えが滲んでいる。



『戦争の条件』

森達也『すべての戦争は自衛から始まる』（講談社文庫・七九二円）

「戦争はダメ」と言うだけではいかに抑止力を高める」とか「戦争を起こさないように自衛力を身につける」などの

レトリックに対抗できなくなる。被害の記憶だけではなく、加害の記憶を刻む必要がある。被害と加害の二つの視点を重ねることで、戦争の悲惨さ、残酷さが初めて立体的な姿で立ち現れる。多くの戦争が自衛意識から始まり、侵略を名目に始める戦争はほとんどない。自衛の意識が過剰に広がる時に踏みとどまるため、加害の記憶の重要性を説く。



『すべての戦争は自衛から始まる』

加藤陽子『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』（新潮文庫・八八〇円）

日清戦争から太平洋戦争まで、日本は十年ごとに大きな戦争をしてきた。日本がかかわった、その時々々の戦争は、国際関係、地域秩序、当該国家や社会に対して、いかなる影響を及ぼしたのか、また、時々々の戦争の前と後ではいかなる変化が起きたのか。中高生向けの講義の中で、

戦争に至る過程を丁寧に辿りながら、戦争というものの根源的な特徴をじっくりと抽出していこうとする。



『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』

## 暴力

戦争は圧倒的な暴力をもって迫ってきます。その暴力は日常では起こらないような厳しいものです。一方で日常でも様々な暴力が存在します。それらの暴力は違うものなのか、そもそも暴力とは何か、「暴力」を問う一冊を紹介します。



『暴力論』

高原到『暴力論』（講談社・二七五〇円）

戦争での民族浄化やテロといった非日常的な暴力は、日常と切り離されたものではない。むしろ日常に潜む暴力の一つ一つがこれらの激越な暴力を準備して、支えている。いじめ、ハラスメント、性差別、ヘイトスピーチ、ネット上の暴言といった日常での暴力が糾合して非日常の暴力となる。だから非日常の暴力を根源的に批判する基点となるのは、私たちの日常の生なのだ。抽象的な人物ではなく、小説に描かれた一人一人の「顔」を持った人物の暴力を通じて、暴力を多面的に捉えようとしていく。

## 平和構築

戦争のない世界を作る、あるいは、戦争を終わらせる。平和を構築するために必要なことは何でしょうか。

篠田英朗『平和構築入門』（ちくま新書・九四六円）

武力紛争が絶えない世界で本当に平和は構築できるのか。そもそもなぜ平和構築に取り組まなければならないのか。国家建設、武力介入、戦争犯罪処罰、経済援助、人道支援による平和構築の現実と

可能性を一章ずつ割いて論じながら、平和構築の方法や思想を問い直す。平和構築の本格的な入門書。



『平和構築入門』

## 民主主義

一部の指導者が戦争を始めようとして民主主義の力をもって市民は反対することができません。けれども民主主義が機能していなければ一部の声に押し流されてしまいます。昨今民主主義の危機が叫ばれています。現在の民主主義の状況や危機的状況に対抗するための本を違った角度から紹介します。

水島治郎編『ポピュリズムという挑戦』  
(岩波書店・三三三〇〇円)

トランプ前大統領就任やブレイグジットの頃からポピュリズムが政治の表舞台に登場して存在感を増している。副題に「岐路に立つ現代デモクラシー」とあるよう

に、デモクラシーがポピュリズムの挑戦を受けていながらも、デモクラシーが危機に瀕しているとまでは言い切れない。アメリカ、ヨーロッパ、日本におけるポピュリズムの状況から、デモクラシーの進むべき道を考える。



『ポピュリズムという挑戦』

トム・ニコルズ『専門知は、もういらないのか』(みすず書房・三七四〇円)

自分の願望や信念に沿う情報だけを集める「確認バイアス」。都合の悪い情報をフェイクと呼ぶ。ネットで得た情報と専門家の情報を同じ土俵に乗せる。これでは、正しい情報に基づいた議論で合意を形成することは難しく、民主主義による政治も機能しない。専門家と一般の人々の間にある亀裂に橋を架け、専門知をうまく活用して、よりよい市民生活を作るための一冊。



『専門知は、もういらないのか』

ビル・エディ「危険人物をリーダーに選ばないためにできること」(プレジデント社・二二〇〇円)

架空の危機をもってメディアで感情を煽り、対立を煽る危険な人物が、一見、魅力的で冷静で大胆で決断力のある頼りがいのある人に見える時、熱狂的に支持を受けリーダーに選ばれてしまう。選ばれる過程やその本質を実例に基づきながら解説する。巻末付録の「対立を煽る危険人物の四十の言動リスト」や「架空の危機の三段論法」が分かりやすい。

## ナシヨナリズム

内と外、味方と敵。社会を二分化して理解することは、他者への理解や共感を遠ざけてしまいます。ナシヨナリズムはそのような二分化した世界観に陥りやすくなります。行き過ぎたナシヨナリズム

は、自国・自民族の優位性を誇り、他国・他民族を劣位の人や敵とみなしてしまします。戦争の原因の一つでもあり、戦争を複雑にする要因でもあるナシヨナリズムを考えます。

ベネディクト・アンダーソン『定本想像の共同体』（書籍工房早山・二二二〇〇円）

「国民」を「想像の共同体」と捉え、「想像の共同体」が人々の心のなかでいかにして生まれ、世界に普及していったのかを解き明かす。ナシヨナリズムの起源とその広まりを解く古典的名著。



『定本想像の共同体』

押村高『国家のパラドクス』（法政大学出版局・三五二〇円）

一つの国家に一つの国民という国家の枠組みが、アイデンティティの多様化やグローバル化によって崩れてきている。一方で、民族の記憶を覚醒させようとす

るナシヨナリズムの言説も復活している。この矛盾したように見える現象はいかにして生まれたのか。イギリス（イングランド）、グレートブリテン、アメリカ、日本を取り上げながら、領土や主権、ナシヨナリズムを問い直す。



『国家のパラドクス』

### 核兵器

広島・長崎に落とされた原爆は甚大な被害をもたらしました。その後核兵器を使用した戦争は起こっていませんが、核戦争の危険性は去るところかむしろ高まってきているとも言えます。核戦争などによる人間の終末までの残り時間を表す「終末時計」はずっと「あとわずかな時間を指し続けています。

ウィリアム・ペリー、トム・コリーナ『核のボタン』（朝日新聞出版・二五三〇円）

著者は、ウォール・ストリート・ジャーナルで「核なき世界」への移行を提言した「四賢人」の一人であるペリー米元国防長官と、民間の立場で核不拡散に取り組んできたトム・コリーナ。冷戦時代の危険な遺物である核兵器による破滅リスクの分析と解決策を提示する。本書を読むとヒロシマ・ナガサキ以降に核兵器を使用した戦争が今まで起こらなかつたのは、偶然を伴う幸運があった危ういパランスの上だったことがわかる。

大江健三郎『ヒロシマ・ノート』（岩波新書・九〇二円）

大江健三郎が広島県で原水爆禁止大会、原爆の被爆者、治療に当たる医師を取材して書き上げたノンフィクション。冷戦時代のイデオロギー対立や政府の大きな声にかき消されそうな個人の声をす



『核のボタン』

くつて、被爆者の「悲惨と威厳」に満ちた姿、医師の献身を描く。刊行後半世紀以上経ても色褪せることなく読み継がれてきた。



『ヒロシマ・ノート』

## 難民

戦争が起こると大量の難民を生み出します。故郷を追われ、国を追われて、劣悪な環境下での危険で不安な日々を強いられます。二〇一九年末の段階で紛争や迫害により故郷を追われた人の数は七九五〇万人です。地球上の九十七人に一人に値する数です。

ヴェクトリア・ジャスミン（作）、オマル・モハメド（原案）、イマン・ゲディ（彩色）『オマルとハッサン』（合同出版・二四二〇円）

ソマリア内戦で父を殺され、母と生き別れになった四歳のオマルと赤ちゃん

だったハッサン。二人がケニアの難民キャンプで過ごした十五年がグラフィックノベルで子どもの視点から綴られる。親がない寂しさや貧しい悲惨な状況下で、出会った人々と友情を育み、夢と希望を持つ姿が心を打つ。



『オマルとハッサン』

滝澤三郎編著『世界の難民をたすける30の方法』（合同出版・一六二八円）

日本は世界でも類を見ないほど難民の認定率が極めて低い。そのため日本では難民がどこか遠い存在のものとして感じられることが多い。一方で難民の窮状を知り心を痛めながらも、どのように行動すればよいか分からないという人も少なくない。難民の背景や状況、世界と日本の支援を説明しながら、具体的な支援方法が実例とともに紹介される。難民を知り、学び、伝え、行動するための一冊。

## 戦争文学・映画

戦争を伝える文学や映画は忘れられていく戦争についての証言です。戦争の巨大な不条理は、一人の個人に容赦なく降りかかります。戦争を体験していない人にも、文学や映画の登場人物の克明な心理描写を通してそれを感じる事ができるのでしよう。戦争を考える姿勢を文学が生み出します。

逢坂冬馬『同志少女よ、敵を撃て』（早川書房・二〇九〇円）

独ソ戦の中で、ドイツ軍により母親を殺され故郷を奪われた少女が狙撃兵となり、過酷な戦場を生き抜く姿を描いた物語。リアルな戦場シーンや女性差別に苦しむ登場人物など細かな描写で一人一人が危険な戦場で戦い抜く姿が丁寧に描かれている。一人一人の顔を持った登場人



『世界の難民をたすける30の方法』



物の描写が、戦争が顔を持たない非人間的なものだという事実を浮かび上がらせる。著者が執筆するきっかけとなったスヴェトラナ・アレクシエーヴィチ『戦争は女の顔をしていない』（岩波現代文庫・一五四〇円）も併せて読みたい。



『同志少女よ、敵を撃て』

矢野寛治『反戦映画からの声』（弦書房・二〇九〇円）

どんな大義名分があろうとも戦争が起こってしまえば、勝っても負けても甚大な被害が出る。紹介されている四十二本の反戦映画で描かれるのは、戦争の無惨さや悲惨さ、そして常に底辺にいる弱い者が損をするという事実だ。再び戦争への歴史を繰り返さないために、平和への意識を強く持つために、過去の映画を見直すべきだ。



『反戦映画からの声』

### ブックガイド

最後に、戦争や平和についてさらに深く学ぶために参考になるブックガイドを紹介します。



『平和を考えるための100冊+α』

日本平和学会編『平和を考えるための100冊+α』（法律文化社・二二〇〇円）

日本平和学会が編集した平和を考えるための名著を紹介したブックガイド。国際関係学・政治学・社会学・法学・文化人類学・歴史学・教育学・哲学・経済学・文学と多岐にわたるジャンルの研究者

が、それぞれ異なるアプローチで平和に迫っている。「古典」と呼ばれる書籍の紹介が多い。



『戦争と平和ブックガイド』

小田桐確編著『戦争と平和ブックガイド』（ナカニシヤ出版・二四二〇円）

国際政治学（国際関係論）を学ぶ大学生向けに作られたブックガイド。古典ではなく、二〇〇〇年以降に出版された比較的新しい書籍三十冊が紹介されている。

野上元・福岡良明編『戦争社会学ブックガイド』（創元社・二〇九〇円）

戦争に関する社会学的探究をする上で役立つブックガイド。戦争、軍隊、文化、戦争の体験や記憶など幅広いジャンルからなる一三二冊を紹介する。

（MARUZEN&ジュンク堂書店梅田店

藤井啓晶）

今月の  
おすすめ

社会科学



世界2.0

メタバースの歩き方と創り方

佐藤航陽著

近年、ビジネスや投資の場で頻繁に耳にするようになったメタバース。本書ではこの次世代のフロンティアであるメタバースの実態や創り方、そしてこれをもたらす未来について語られている。

メタバースを創り出すことは新たな世界を創造することに等しく、クリエイターはその新世界の生態系や様々なアルゴリズムを一から創り出さなければならぬ。もはやそれは「神」の民主化であると筆

者は語る。つまり誰しもが創造神に成りうる可能性があるということだ。一時的な流行ではなく、遠からず訪れる我々の未来におけるメタバースの重要性や革命性を、本書とともに考えてみては如何だろうか。 幻冬舎 一六五〇円



デュアルキャリア・カップル

仕事と人生の3つの転換期を

対話で乗り越える

ジェニファー・ペトリリエリ著

一個人のキャリアを考える書籍は多数あるが、パートナーとキャリアという視点からの書籍は珍しいように思う。本書はデュアルキャリア・カップル、つまり二人とも職業生活が人生において大切であり、仕事を通じて成長したいと考えているカップルが「愛情と仕事の両方で成功す

るにはどうしたら良いか」を学術的に研究してまとめたものだ。カップルには三つの転換期があるとし、それに直面した際の向き合い方や乗り越え方を様々なカップルの実例を通して考えることができる。

人生百年時代。欧米に比べ、日本ではまだデュアルキャリアのライフモデルは確立されていない。本書はこれから生きる人々の「新しい地図」となる一冊だ。 英治出版 二四二〇円

伝説の「論理思考」講座

東大ケーススタディ研究会編

白木 湊著 『地頭を鍛えるフェルミ推定ノート』(東洋経済新報社・二五九五円)

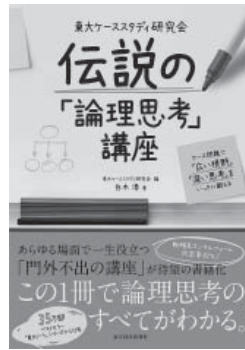
などの「東大ノート」シリーズが好評の東大ケーススタディ研究会による最新刊。論理思考でミスをする原因やそのミスを回避する方法を紹介しながら、現状を把握し課題を特定、そして打ち手を考案するという三つのステップを通じて経営コンサルの実務でも通用する論理思考力を鍛えてくれる。

自力で習得するのが難しい論理思考力だが、本書はケース問題と丁寧な解説が

あるので基礎を押さえるのには十分だろう。仕事で活かせるように常日頃から意識したいものだ。

東洋経済新報社

一九八〇円



ぶつちやけ、誰が国を動かしているのか教えてください

17歳からの民主主義とメディアの授業

西田亮介著 コストとインセンティブ

の観点を取り入れ、お説教論調を排除した斬新な入門書。選挙に行くのが面倒、今ある制度ができた経緯が分からない、「自由」が何かもよく分からない——そういう若者の本音に寄り添う形で書かれている。

たしかに政治は複雑で面倒だが、生活と無関係なく関わっている。だからきちんと損得勘定を働かせなければ、結局は大きなコストを払うことになるだろう。そ

うならないためのメディア活用法についても詳しく説明されている。

日本実業出版社

一七六〇円



刑法的思考のすすめ

刑法を使って考えること、面白さを伝えたいんだよ！

仲道祐樹著

著者は早稲田大学教授の刑法学者で、本書は早稲田大学と大和書房による書籍シリーズの一つ。専門用語と難解な概念が多い刑法を、初学者に向けてわかりやすく伝えるために書かれている。

書名に「刑法的思考」とあるように、すべての条文を解説するというものではなく、実際の事件をもとにして、様々な状況を想定し、刑法ではどのように考えていくのかを解説していく。わかりやす

さを優先させているため、専門用語を極力使用しないように配慮されているので、入門書として読みやすく仕上がっている。さらに、初学者向けのブックリストも掲載。法学未修者でも刑法を身近に感じられるように、様々な工夫がなされている。

大和書房

一八七〇円

### 大衆の狂気

ダグラス・マレー著 『西洋の自死』(東洋経済新報社・三〇八〇円)で移民とい

うタブーに切り込んだ著者が今回論じるのは「多様性尊重」。LGBTや女性、有色人種等の権利はここ数十年で、十分とは言えずとも改善してきた。それ自体は喜ばしいことだが、抑圧された権利の回復のための運動の一部は、彼らの主張に対する議論を拒み、意見する人をヒステリックに攻撃。包摂ではなく対立を呼んでいる。ここ数十年で激変した「常識」を冷静に議論することも許されない状況は正しいのか。違和感を飲み込むしかない世界は、長期的に観て良い結果をもたらすだろうか。マレーの意見に賛成でも否でも、その論には一考の価値がある。

徳間書店

三〇八〇円

今月の  
おすすめ

コンピュータ

ALIFE 人工生命より生命的なAへ  
岡 瑞起著

「人工知能 (Artificial Intelligence: AI)」ではなく、「人工生命 (Artificial Life)」。響きは似ていても、そのアプローチはまったく異なる。人工知能の最終的な目標は人間のような知能を生み出すことだが、人工生命が目指すのは人間のよ  
うな生命とは限らない。多種多様な生命を生み出してきた、進化というシステムそのものだ。本書でも鳥の群れがぶつからずに飛ぶ様子を再現したシミュレーションモデルや、ミーム (文化的遺伝子) によって拡散していくソーシャルメディアなど、様々な角度から生命の仕組みに迫ろうという取り組みが紹介されている。しかし人工生命は現在、人工知能研究の界限から熱い期待を寄せられているという。多様な進化を続ける人工生命を生み出すことができれば、いつか人工知能を宿した人工生命が生まれる可能性もあ

るからだ。人工知能ブームの次は、人工生命ブームが来る？

ビー・エヌ・エヌ新社 二八六〇円



ソフトウェアアーキテクチャの基礎

Mark Richards 他著 島田浩二訳

ソフトウェアアーキテクチャとは、ソフトウェアの構造を決定する指針のこと。開発の規模や用途、予算といった様々な要素を鑑みた上で適切なアーキテクチャを採用する必要がある、唯一無二の正解は存在しない。本書は伝統的なレイヤードアーキテクチャから昨今流行りのマイクロサービスアーキテクチャまで網羅的に解説しているが、各アーキテクチャの耐障害性やスケラビリティ、コストやシンプルさなどの特性が評価表としてまとめられており、長所と短所が一目瞭然

なのが特徴。トレードオフを制する者が、ソフトウェアアーキテクチャを制する。

オライリー・ジャパン 四一八〇円

ポストモーター

日経コンピュータ著 ポストモーターとは直訳すると「検視」や「死体解剖」。ここから転じて、システム障害が起きた際の事後検証報告書のことを指す。昨年二月、みずほ銀行のATMで顧客の通帳・カードを取り込んだまま停止するというシステム障害が発生した。その件数はなんと五千件超。本書は障害発生から時系列に添って、どのような障害が起きていたか、なぜ障害の規模がここまで拡大したかについて克明に解説している。また、みずほ銀行は合併して間もない二〇〇二年と東日本大震災直後の二〇一一年にも、大規模なシステム障害を引き起こしている。なぜみずほ銀行は、何度もシステム障害を繰り返してしまうのか。二十年以上にわたりみずほ銀行のシステム障害を追ってきた日経コンピュータ、渾身のポストモーター。システム開発・運用に関わる立場なら必読の一冊だろう。

日経BP

一九八〇円



自然科学

昆虫の惑星

アンヌ・スヴェルトルップ・ティーゲソン著  
小林玲子訳  
この地球には膨大な数の昆虫が生息している。なんと、ヒト一人につき二億匹以上の昆虫がいるともいわれているらしい。ところが、彼らが生態系にどのように関わっているかを深く考えたことはあまりなかった。

本書は元々昆虫が得意ではない私のような人にも、読み進めていくうちに彼らが地球上の素敵な隣人であることを認識させてくれる。普段口にしてしているチョコレートやアーモンド、その他沢山の果物も彼らの活躍なしにはあり得ないのだ。昆虫の生態や体の構造は人間から見ると奇抜でぎょっとしてしまうようなものも多いが、それは彼らが長い間地球と共にたくましく生き抜いてきた証でもある。普段出会う昆虫への見方が変わる一冊だ。

辰巳出版

一九八〇円

その日常、地理学で説明したら意外と深かった。

街と地域を知るための5つの物語  
富田啓介著

今年四月から約五十年ぶりに「地理」が高校の選択科目から必修科目になる。大きく三本の柱からなる「地理総合」のテーマの一つが「持続可能な地域づくりと私たち」。その内訳である「自然環境と防災」「生活圏の調査と地域の展望」は本書でも取り上げられているテーマだ。

この本の各章は三部構成になっており「物語」「地理の目」「ちよつと寄り道」である。「物語」は体験を通して概要を伝え、読み手に想像の余地を残しつつ心温まるストーリー。「地理の目」は地理学の視点や調査の手法を盛り込んだ解説。「ちよつと寄り道」は章のメインテーマではないが、物語の進行の鍵となるような地理学的トピックについての余談。各章にはテーマがあり読み進めることで地理学への理解が深まる構成となっている。地理に興味がある人も小説が気になる人も可愛い表紙に惹かれて手に取った人も、地理学の取っ掛かりとして読んでみてはどうだろう。

ベレ出版

一八七〇円

世界の美しい灯台

デイヴィッド・ロス著  
秋山絵里菜訳

灯台。その言葉を聞くだけで、熱い想いが込み上げてくる人はそれほど少なくはない筈である。

二十世紀のうちにほとんどの灯台で自動化が進み、灯火を維持するシステムを備えるようになり、多くの「灯台守」が必要でなくなつた。さらに、衛星航法やレーザー、GPSの登場で、現役で稼働する灯台は大きく減少した。今日、国内では「灯台守」という専門の仕事はもう存在せず、私たちは、いくつかの文学作品や映画や伝記でその存在をただ「知っている」だけである。

だが、いや、だからこそ、地の果ての断崖絶壁に屹立し、海へ向かって光を投げかけ続けるこの建造物が、かくも美しいのだ。その美しさを容易に表現することなどできないが、灯台は、今も地の果てで、やがて帰ってくる船乗りたちを待ち続ける光を灯し続けている。

原書房

四一八〇円

今月の  
おすすめ

医学書



新人ナースあるあるの森

「ある森」委員会 feat. Nバク&ヤンデル編  
看護師 YouTuber の Nバクさんと、SNSでの発信力が高く、看護学校の人気講師である病理医のヤンデル先生がコラボした一冊。「同期と自分を比べて落ちこんでしまう」、「昨日は優しかった先生が今日は怖かった」など、新人ナースが経験する六十の事例について、コメントやアドバイス、メッセージをつけてまとめている。この六十のあるあるを読むことで、仕事に対して少し前向きになれる

ような力添えをもらえるはずだ。

日本看護協会出版会 一六五〇円

一九六〇年代のくすり

松枝亜希子著

一九六〇年代といえば、日本は高度経済成長期である。人々は精力的に働いていた。そのような日常生活を円滑に進める為の手段として、本書で言及されているような医薬品（保健薬、アンプル剤・ドリンク剤、トランキライザー）が重宝されていたのである。本書では、それらの医薬品の具体的事例の検証をしている。現在とは異なる医薬品をめぐる社会的状況及びその変容の経緯を検証し、時代に顕在化した重篤な薬害の背景や、現在の薬品をめぐる問題、今後生じる問題の理解・考察へと繋ぐ一冊となっている。

生活書院 二七五〇円

イラストと図解でよくわかる

対人援助のスキル図鑑

大谷佳子著

近ごろ対人援助に関する本の出版が多い。そのなかでも特にこの本はわかりや

すさに重点を置いている。シンプルなイラストや図解を見るだけでも理解できそうだ。福祉、医療、保健、心理関係の職に就く人に必要な五十三のスキル（援助対象者用・職場の人間関係用）を集めた。読み物として、またパッと調べたい時の用語・スキル事典として使えて、職場の本棚にオススメ。

中央法規出版 二六四〇円



留学医師LIVE

北原大翔編

今は、日本で働く以外の自由な選択肢がある。それを知らずにいるのはもったいないかもしれない。アメリカ心臓外科医の著者が創設した団体のYouTubeをもとに編集された、楽しい留学情報本。

メジカルビュー社 二九七〇円



## 人文科学

### 憑依と抵抗

現代モンゴルにおける宗教とナショナリズム  
現代のモンゴルは、我々の大多数が抱くであろう「草原と遊牧民」というイメージとは程遠く、人口の大多数が首都に暮らす都市生活者であるという。

急増するシャーマンや、モンゴルで爆発的な人気を得てきたヒップホップ等を通して、貧富の格差や環境汚染、過当な競争の中であえぐ現代モンゴルの姿を追った一冊。

晶文社

二四二〇円

### ヤバい神

不都合な記事による旧約聖書入門

トーマス・レーマー著

旧約聖書には、神が残酷であるという印象を与える記述が少なからず存在する。例えば創世記には神がアブラハムに息子イサクを生贄にするよう捧げるよう命じる場面があるが、その解釈について

は多くの宗教家、研究者が頭を悩ませてきた。本書ではそのテクストが書かれた歴史的状况を理解することで、「ヤバい」旧約聖書を読み解こうとする。

新教出版社

二四二〇円

### スマートな悪 技術と暴力について

戸谷洋志著

スマートであることは善いことなのか？ 特に日本社会においてはある種の規範のように扱われる、スマートさの倫理性を問う一冊。ハイデガー、アーレント、ギンター・アンダーラスなどの思想を手がかりに技術の哲学の一つとして議論は展開される。「超スマート社会」が国家規模の目標とされる現代社会において、我々が目指すべき技術のあり方とは。

講談社

一五四〇円



### 私たちのなかの自然

ユング派心理療法から見た心の人類史  
猪股 剛編著 ユング派心理療法家たちが集まってひとつのテーマについて考えるシリーズ、前回の「ホロコースト」

に続いて今回は「自然とのかかわり」である。心理臨床家のみならず農耕や狩猟採集に携わり、フィールドワークを心理療法に援用する過程をドキュメントすることで、さらに分析を深めていくさまは、さながら文学評論のようですらある。

左右社

三三〇〇円

### 2050年の入試問題

神成淳司他著

三十年前にAO入試を生み出した慶應SFC。現役教員と卒業生が集結して行われた三十年後を見据えた対話の記録集。入試において難しいのは、多科目点数制にしるAOにしる、受験技術として攻略対象化されてしまうところだ。人工知能で人の能力を判断できるか、という話も現在の技術では無理そう。しかし三十年後ともなればAI入試も可能かもしれない。

日本経済新聞出版

一九八〇円

# 今月の おすすめ

## 文学・文芸

おいしいごはんが  
食べられますように

高瀬隼子著

お菓子作りが上手で、いつも笑顔で優しい芦川。彼女は体調が悪くなるとすぐ  
に早退したり、当日欠席したりするなど、  
出来ないことがたくさんあったが、無理  
して頑張らなくても周りから咎められ  
ず、むしろ理解され守られていた。

そんな芦川の弱さに性的興味を持つ二  
谷。二谷を慕い、芦川が出来ない仕事を  
こなす頑張り屋の押尾。

芦川に対して「嫉妬」とも「嫌悪」と  
も呼べぬ感情を渦巻かせながら、物語は  
二谷と押尾二人の視点で進んでいく。関  
係の中心にいる芦川の心の内は語られる  
ことがない。そのことが物語に若干の不  
気味さを滲ませる。

著者はどうしてここまで人々が持つ醜  
い感情を浮き上がらせて言葉にできるの  
だろうか。読んでいてとても苦しくなる

が、それでも読むのをやめられない。こ  
の小説はまるで身体に悪いとわかっ  
ても食べるのをやめられない、真夜中の  
カップ麺のようだ。

講談社

一五四〇円

## 爆弾

呉 勝浩著

些細な傷害事件で東京・野方署に連行  
された、身元不明の中年男。一見平凡に  
見えるその男は「十時に秋葉原で爆発が  
ある」と予言。直後、その予言は現実の  
ものとなる。爆発を止めるため、警察は  
男からヒントを得ようとするが、あつけ  
らかんとした態度に翻弄された次なる  
爆発が起こってしまう。

駆け引きと一言で表すことのできな  
い、男の心を喰う術がじりじりと読者  
の身をも焦がす。燃え始める、「犯人」  
に対する正義という名の敵意。いつの間  
にか一線を越えそうになるのは、男の語  
る真実が問いかけてくるからだ。命は本  
当に平等なのか、と。犠牲者が始める  
なかで揺らぐ「正義のありどころ」。こ  
の物語の中に居た誰かは、わたしだった。

講談社

一九八〇円

あのひとりが

この世のすべてだった頃

ナ・テジュ著

韓国で五十万部突破のベストセラー

『花を見るように君を見る』（かんき出版・

一六五〇円）著者による、待望の詩集。

風や月や星など、ナ・テジュさんの詩集  
には自然が多く登場するが、自然は自然  
として描かれ、良いところも悪いところ  
もきちんと両方の面を描かれている。「冷  
えていくあなたの手を惜しんで泣く風で  
ありたい」とナ・テジュさんは書くが、  
風だから人間のように手を温めることは  
できず、冷やしてしまうのだ。でもどう  
することもできない。そんな部分をきち  
んと描くことで、多くの人間の心を動か  
しているのだと思う。

「心に血が溜まる」という表現も、初  
めて聞いた。他の言葉に置き換えるので  
あれば何かな、と考えてみたが、なかな  
か思い当たらない。優れた詩集というの  
はそのようなものかもしれない。置き  
換える言葉を見つけ出せず、その言葉が、  
頭の中でずっと起きてから目を閉じるま  
で、めぐり続けるようなもの。

KADOKAWA

一六五〇円



今月の  
おすすめ

文庫・新書

歌舞伎座の怪紳士

近藤史恵著

主人公の久澄は職場でハラスメントを受け退職。現在は家のことをしながらこのままではいけない、でもどうしたらいいかわからない、という悶々とした心境で日々を過ごしていた。

そこへ祖母からアルバイトを依頼される。チケットを送るので自分の代わりに観劇して感想を教えて欲しい、というのだ。日当につられて引き受けた久澄。歌舞伎やオペラ、演劇と初めての劇場と芝居に魅了される久澄であったが、そこで毎度奇妙な出来事に巻き込まれる。いつも助けてくれる劇場で知り合った老紳士、堀田とは何者か。

久澄は悶々とした日々から抜け出すのか。彼女が巻き込まれる事件の顛末、観劇する芝居の魅力と共に、彼女自身の選択からも目が離せなくなる。

徳間文庫

七八一円

オールドレンズの神のもとで

堀江敏幸著

読み終えた後ふとした瞬間に脳裏に色彩豊かな情景と登場人物たちの言葉がよみがえる十八篇の作品集。

表題作「オールドレンズの神のもと

で」には男たちの頭部に代々孔があいているという一族が登場する。モノクロの世界に生きる彼らは一生に一度、鮮烈な色を体験する。ある写真集に着想を得たという本作、モノクロの世界で人々を魅了し続けるその写真家の作品を知らずとも作中の情景の数々に引き込まれずにはいられないだろう。写真家の作品を知る人は不思議な既視感を味わえる。写真家が気になる方はぜひ巻末でご確認を。

「杏村から」はわずか二頁ながら語り手の「わたし」への伯母の愛情と想いがこもった言葉が心に残る一篇。

「果樹園」ではひよんなことから犬の散歩係になった主人公をとりまくやさしい交流が描かれている。よりそう二頭の犬のオクラとレタス、飼い主夫妻との出会い、散歩係になった主人公、つながる縁と身近な存在への思いやりにやわらかな気持ちになれる作品。

日常のささやかな出来事のきらめきの描写がこんなにも優しい気持ちにさせてくれるのかと驚きの連続の一冊。

文春文庫

七二六円

それいけ！ 方言探偵団

篠崎晃一著

その土地ならではのもの、というのは景色や食べ物、風習なども旅情をそそり、また自分の住む地方との違いを感じて、日本は広いなあ、としみじみしたりする。方言はその最たるものと言えるだろう。

方言学と社会言語学を専門とする著者が、北海道から沖縄までの各地から集めた方言二二語を地域別に解説している。

それにしても日本全国津々浦々、いろいろな表現や言い回しがあるものだ。と感心する。

その言い方でしか表現できない何か、が本書にはたくさん登場する。例えば、「いずい」。例えば、「あとぜき」。

日本語の豊かさを改めて知ることができる一冊。

平凡社新書

九二四円

今月の  
おすすめ

芸術

アート&デザイン表現史

1800s - 2000s

松田行正著

一八〇〇年から現在までの、アート、写真、グラフィックなど様々な分野での革命的な表現が網羅された一冊。「俯瞰」「乗っ取り」「余白」「ぼかす」などキーワードごとにその表現の歴史と作品が紹介されている。モンドリアンがこだわった三原色、デュシヤンが用いた便器など、すでに「革新的」として広く知られているものはもちろん、今では当たり前のように観ている表現が時代の中ではいかに先駆的であったかがわかる。

「速度表現」の項ではターナーの描いた蒸気機関車の絵が取り上げられている。十九世紀初頭にそれまで最速であった馬車の速さより格段に速い汽車が登場し、ターナーは当時の人間が新しく身につけていった感覚である「スピード感」を絵画で表現した。そのように、文明の

進化や歴史の出来事と共に表現が生み出されていく様子は、これからのアートへの期待にもつながっていく。

左右社

四九五〇円

エドワード・ホッパー作品集

江崎聡子著

二十世紀アメリカ美術を代表する画家のひとり、エドワード・ホッパー。これまで彼に関して日本語で読める書籍は数少なかったが、この度待望の作品集が刊行された。

A4サイズの判型、オールカラーで百点近くの図版を収録。「ナイトホークス」をはじめとする彼の作品群を手元でじっくり味わうことが出来る。また、江崎聡子氏によるエッセイと解説は、ホッパーの来歴や作品解説はもちろん、ホッパーと近代アメリカ美術の関係、そして彼にとって「アメリカ」とは果たして何だったのか、時代の空気や作品の成立背景も詳しく知ることが出来る。絵そのものを味わうもよし、知識を深めて楽しむものもよし、彼の作品を色々な角度から見ることが出来る充実の一冊。

東京美術

三八五〇円

レオス・カラックス

映画を彷徨うひと

フィルムアート社編集部編

レオス・カラックスは、一九八〇年代にジャン・リュック・ベネックス、リュック・ベッソンとともにフランスから世界に向けて映画に新たな潮流をもたらした。そのなかでも特にカラックスは、完璧主義によって映画を突き詰める孤高の存在として知られる。同時に非常に寡作な監督で、作品発表はほぼ十年に一本のペースである。

翻って今回の本に目を向けてみると、その寡作さとは相反して、その重厚さは圧巻である。カラックスが自ら語る監督になる以前から今までのキャリアと思考、カラックス映画に欠かせない俳優やスタッフの証言、作品ごとの評論・解説から作家・テーマ論に至るまで、盛りだくさんの内容となっている。

カラックスの映画を語りつくすのは容易ではない。作品ごとのみならず、同じ作品ですら観るたびに新たな発見がある。ぜひこの本をお供に、カラックス映画を読み解き・堪能してほしい。

フィルムアート社

三五二〇円

今月の  
おすすめ

実用書  
地図・旅行書

裸の大地 第一部 狩りと漂流

角幡唯介著

今回の冒険後のインタビューで、「おれは現代人をやるぞー」と言いたい気分だったと語った著者。大きな転機となりそうな今回の旅は冒険家に何をもたらしたのか。

暗闇が支配した『極夜行』（文春文庫：八八〇円）の冒険から一転して、真っ白な白夜の極北を狩りをしながら北を目指す。ゴールから逆算して行動する、未来から束縛されるような冒険に疑問を持ち、狩りという不確定要素を旅に持ち込んだ。相棒の一頭の犬と橇を引き、狩りが上手くいけばそれだけ長く旅を続けられる。計画から解放され、目の前の自然に没入できる旅は、どこまでも自由で、どこまでも危うい。

今のこの時代に通用する新しい冒険の形を模索していった結果、昔の人の旅に戻ったようにも見えるが、「冒険」や「旅」

からさえ解放されて、土地とともに生きるといふ、人間の原点にたどり着いたようにも思える。

今回の旅に手ごたえを感じた著者は、さらに北を目指すように多頭で引く犬橇を習得した。今春旅立った第二部にも乞うご期待。

集英社

一九八〇円



いい日だった、と眠れるように

私のための私のこぼん

今井真実著

本書をめぐっている途中で、ふと思いつちキッチンに立った。土佐煮でも作るつもりで買ってあったタケノコが存在を思い出したのだ。フライパンを手に油にマスタードシードと胡麻、ニンニクの香りを移したタケノコに纏わせたら、カレー

粉と米酢で風味付け。完成したのは「たけのこのマスタードシード炒め」である。ありふれた食材がいつもの調味料で、一風変わったひと皿に。しかも、美味しい。そうか、タケノコだからと和食にこだわらなくてもいいのか。少しだけ自由になれた気がした。

「料理ができるとは、技術ではなく、自分のお腹や気持ちに合わせて、ご飯を支度できること」と語る著者のアイデアが随所に光るレシピと、四季の食卓にまつわるエッセイは、ありふれた日常にひと匙のスパイスを加えてくれる。「鯛と生ハムのちらし」も気になるけど、夏になったら「ナンプラーバター枝豆」を作るのだ。新しい季節が待ち遠しくなるエッセイ&レシピである。

左右社

一八七〇円



今月の  
おすすめ

語学・辞典

世界が広がる推し活英語

ゲキギレスメネキ  
劇団雌猫監修

英会話の本や教材など沢山の種類が出版されてきたが、今回は日米のオタクが本気で作ったというコンサートやファンイベントで使える、オタク向きの英単語・フレーズ集が出た。

今まで野球やゴルフ、プロレスまでもが英会話本になってきたが、専門的な英語という意味では、オタクの英会話があってもいいはず（オタクとは、特定の趣味にのめり込んで詳しい知識をもつ人のこと）。

確かに言われてみれば、「推し」って英語でなんて言うの？ただ好きって英語で表現するのも違うし、独特な言い回しだ。二十一世紀になって広まった言葉「推し」なんて、辞書でも訳せないのだ。今や世界中にいろんなオタクがいる中、国境を越えてもっと推し活を楽しみたい方のため、英語にフォークラスして表

現語彙を紹介しているのが「推し活英語」だ。漫画、アニメ、ゲーム、アイドル、ジャンルを問わず使える表現で楽しんでもらえる一冊。

学研プラス 一五〇〇円

英文法が身につく

教養としての

英語ことわざ100選

島山雄二編著

ことわざとは、その国の教訓・風刺などを含んだ短句である。その中には簡潔で覚えやすいものも多く、世界各国で世代から世代へと言い伝えられている。

本書は、公用語として学習者が多い英語に着眼し、英語のことわざを読み解くことにより、効率的な英文法学習と文化的教養を高められる。

構成は、教養として知っておきたい英語のことわざ百個を厳選。一つの語句を各四ページで、英語のことわざの意味と由来、ことわざに使われている文法について丁寧に解説。さらに各語句のページの最後には、学んだ英文法の発展形を掲載しており、ワンランク上の英文法も学習できるところが他の教養本にはない良

点である。

英語の知識を深めたい方、欧米の人生観を学びたい方に。

明日香出版社 二二〇〇円

図解スペイン語日常会話

ニュアンス使い分けブック

平見尚隆著

スペイン語を学習するメリットとして、一つ目は、話者数が世界四位である点だ。その数は約五億人いるとされ、習得できればその人数だけコミュニケーションを取れる機会が増える。二つ目は、日常会話で必要な語彙数が他言語より少ない点だ。例えば、英語は約三千語を必要とするが、スペイン語はその半分程度を理解できると言われている。

そのようなメリットがある中で、スペイン語フレーズをテーマごとにグラデーショナル図で表した本である。グラデーショナル図とは、ネイティブが感覚的に使い分けられている意味の強弱などを視覚的に図で表したもの。一目でニュアンスの違いを理解し、フレーズも関連付けて学べるので、効率的な学習に最適である。

ベレ出版 一九八〇円

今月の  
おすすめ

児童書

はっぴーなつつ

荒井良二絵と文

「わたしの耳は遠くへ旅をするんだよ」  
嬉しそうな鳥の声、優しい風の音、明  
るくなる空の音、配達音……。そうし  
て耳が届けてくれた色んな音で、わたし  
の目を開かせてくれる。

「おはよう！ 生まれたての春ですよ！」  
そしてある朝には、夏の雲が窓から入っ  
てきて、私を乗せて眩しい光の中を進ん  
で、夏を案内してくれる。すると今度は、  
秋から葉っぱの招待状が届いて……。

柔らかな手書きの文字と、コマ割りで  
描かれた季節の気配を辿っていくと、今  
度は画面いっぱいにも明るい色彩で描かれ  
た「季節の輝き」が飛び出してくる。

そのメリハリの利いた構成で、四季を迎  
える楽しさを思い出させてくれます。ま  
るで視界が開けるような、心浮き立つ感  
覚を楽しんで欲しい絵本です。

ブロンズ新社

一五四〇円

レッツもよみます

ひこ・田中作

ヨシタケシンスケ絵

小さなレッツにとっては、どんな出来  
事も新鮮な発見に満ちあふれている！

ひこ・田中さんによる「レッツシリ  
ズ」も、今作で五巻目。家族が増えたり、  
身長が伸びたりしたレッツは五歳。字が  
読めるようになりました。すると突然、  
読み聞かせをしてくれていたお父さんの  
声がうるさく聞こえるように？

なぜそうなったのかわからないレッツ  
は、読んでもらう本を変えてみたり、お  
母さんに読んでもらったりと色々工夫  
をしてみるけれど……。

どこまでも等身大の子どもの視点で描  
かれる本シリーズ。誰もが通る、一瞬だ  
けどとても大切な日常の中での成長を、  
ユーモラスに描きます。

まさに今、自分一人で本を読むよう  
になったお子さんに共感してもらえら  
るう一冊。そして、最近とんと読み聞か  
せをしなくなつたなあと感じている親御  
さんにもお勧めの一冊です。

講談社

一四三〇円

まじりのモリーとわにのかばん

こまつぶひさ文

はたこうしろう絵

ひつじのモリーは、おでかけするのが  
大好き。森でも海でも、どんなところ  
もおでかけするのですが、だいたい迷子  
になつてしまふのです……。

今日もお父さんにもらつたわにのかば  
んを持つておでかけです。このわにのか  
ばん、ただのかばんではありません。自  
信满满でどんどん進むひつじのモリー  
を、時には見守り、時には家来のように  
扱われる、なんとも不思議な生きている  
かばんなのです！ さて、今日こそは、  
迷子にならずに帰つて来られるのでし  
ょうか。

ちいさなこどもにとっては、近所への  
おでかけも大冒険です。この二人(?)  
のゆかいなおでかけも、まさにそんなこ  
どもたちの大冒険のようなおでかけで  
す。なんととも言えないキュートなモリー  
を中心としたユーモラスなおはなしです  
が、読み終わった後にはきつと心があつ  
たかくなります。

童心社

一四三〇円

「沁みる夜汽車」の物語

横山 栄

時々利用している街中の図書館で思わず引きこまれた本書、コロナで坐ることも難しい時であったが時間を忘れて目を走らせた。

・ 駅業務をかねて環境整備に励む夫婦。がんにうち勝つてがんばる主人をカバーする奥さん。

・ 通勤電車の中でおなかをおさえている小学一年生、途中の駅で駅員さんに事情を話してバトンタッチ、その後交流が深まって富士山登山を成功、二人の友情は永く続いた。

・ 和服の女性が大阪から一人列車を利用して東北のある駅をめざしての旅。

途中、紳士と知り合い、教えられた米原経由で上野へ行き乗り換えて彼の待つ小駅へ無事ついて初めての顔合わせができ、幸せな家庭を築かれたとのこと、

冬の雪の積もる東北へいかれた勇氣と度胸に感心、思わず目頭が熱くなりました。

(八十九歳・無職)

\*『何度でも泣ける「沁みる夜汽車」の物語 ありふれた鉄道で起きたありえない感動の実話』

(ビジネス社・NHK沁みる夜汽車制作チーム著・

一五四〇円)

# 『ひきこもりグルメ紀行』

河瀬 真紀

コロナが幅を利かすようになって幾つかの季節が過ぎ、気軽に旅に行けた、又は行けると思えたことはとても恵まれたことだったんだなあ、そんな思いが頭をよぎります。

そんな中、手にした『ひきこもりグルメ紀行』。著者のカレー沢薫さんが、家にいながらにして「おとりよせ」で全国のうまいものを食べてしまおうという一冊でいるものもあり、知らないものもあり、これだけのものが「おとりよせ」できるんだと、まずその物流の素晴らしさに頭が下がりました。そして読み進める度、こみ上げてくる笑い。「奇しくも似てしまった」お菓子、萩の月の話。「食べにくい新食感」と書かれている羽二重餅の話。「食べづらさ」でも有名な桔梗信玄餅の話。中でも著者の博多通りもんに対する一筋縄ではいかな愛の深さが伝わる話には「ちよつとわかる気がする」と一人言を口にしてしまいました。

あとがきに、おとりよせすることにより、逆に現地に行く意味を見いだせたということである。『』という一文があります。いつかこれらの品を現地で手にする日がくることを願いつつ、とりあえず、信玄餅の正しい食べ方のイメトレをしようと思います。

(五十一歳・主婦)

\*『ひきこもりグルメ紀行』  
(ちくま文庫・カレー沢薫著・八五八円)

# ATION

<p>丸善 = ヒルズウォーク徳重店 = ☎(052)846-2610 〔営業時間〕10時～21時半</p> <p>丸善 = イオンタウン千種店 = ☎(052)715-7911 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>丸善 = 豊田 T-FACE 店 = ☎(0565)41-3282 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = 名古屋店 = ☎(052)212-5360 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = 名古屋店 = ☎(052)589-6321 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>丸善 = 岐阜店 = ☎(058)297-7008 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>丸善 = 四日市店 = ☎(059)359-2340 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = 滋賀草津店 = ☎(077)569-5553 〔営業時間〕10時～22時</p> <p>丸善 = 京都本店 = ☎(075)253-1599 〔営業時間〕11時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = 松坂屋高槻店 = ☎(072)686-5300 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>丸善 = 高島屋堺店 = ☎(072)225-0930 〔営業時間〕10時～19時半</p>	<p>丸善 = セブンパーク天美店 = ☎(072)339-7330 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>MARUZEN &amp; ジュンク堂書店 = 梅田店 = ☎(06)6292-7383 〔営業時間〕 平日 9時半～22時 土・日・祝 9時～22時</p> <p>丸善 = 八尾アリオ店 = ☎(072)990-0291 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>丸善 = 高島屋大阪店 = ☎(06)6630-6465 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = 大阪本店 = ☎(06)4799-1090 〔営業時間〕9時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = 難波店 = ☎(06)4396-4771 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = 天満橋店 = ☎(06)6920-3730 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = 上本町店 = ☎(06)6771-1005 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = 近鉄あべのハルカス店 = ☎(06)6626-2151 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = 樫原店 = ☎(0744)29-0781 〔営業時間〕10時～18時半</p>	<p>ジュンク堂書店 = 奈良店 = ☎(0742)36-0801 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = 西宮店 = ☎(0798)68-6300 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = 芦屋店 = ☎(0797)31-7440 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = 神戸住吉店 = ☎(078)854-5551 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = 三宮駅前店 = ☎(078)252-0777 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = 三宮店 = ☎(078)392-1001 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = 舞子店 = ☎(078)787-1250 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = 明石店 = ☎(078)918-6670 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = 姫路店 = ☎(079)221-8280 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>丸善 = 岡山シンフォニービル店 = ☎(086)233-4640 〔営業時間〕10時～20時</p>	<p>丸善 = さんすて岡山店 = ☎(086)230-3001 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>丸善 = 広島店 = ☎(082)504-6210 〔営業時間〕10時～22時</p> <p>ジュンク堂書店 = 広島駅前店 = ☎(082)568-3000 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = 高松店 = ☎(087)832-0170 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = 松山店 = ☎(089)915-0075 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>丸善 = 博多店 = ☎(092)413-5401 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = 福岡店 = ☎(092)738-3322 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = 大分店 = ☎(097)536-8181 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>丸善 = 天文館店 = ☎(099)239-1221 〔営業時間〕10時～20時半</p> <p>ジュンク堂書店 = 鹿児島店 = ☎(099)216-8838 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = 那覇店 = ☎(098)860-7175 〔営業時間〕10時～21時</p>
--	---	--	--



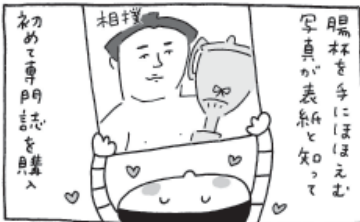
# INFORM

<p>MARUZEN &amp; ジュンク堂書店  <b>＝ 札幌店 ＝</b>            ☎(011)223-1911            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ 旭川店 ＝</b>            ☎(0166)26-1120            [営業時間] 10時～19時半</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ 弘前中三店 ＝</b>            ☎(0172)34-3131            [営業時間] 午前10時～            午後7時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ 盛岡店 ＝</b>            ☎(019)601-6161            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ 秋田店 ＝</b>            ☎(018)884-1370            [営業時間] 10時～20時</p> <p>丸善  <b>＝ 仙台アエル店 ＝</b>            ☎(022)264-0151            [営業時間] 10時～21時            日・祝10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ 新潟店 ＝</b>            ☎(025)374-4411            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ 郡山店 ＝</b>            ☎(024)927-0440            [営業時間] 10時～19時</p> <p>丸善  <b>＝ 水戸京成店 ＝</b>            ☎(029)302-5071            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善  <b>＝ 日立店 ＝</b>            ☎(0294)32-7401            [営業時間] 10時～20時</p>	<p>丸善  <b>＝ 丸広百貨店飯能店 ＝</b>            ☎(042)973-1111            [営業時間] 10時～19時</p> <p>丸善  <b>＝ 丸広百貨店東松山店 ＝</b>            ☎(0493)23-1111            [営業時間] 10時～19時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ 大宮高島屋店 ＝</b>            ☎(048)640-3111            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善  <b>＝ 桶川店 ＝</b>            ☎(048)789-0011            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善  <b>＝ 津田沼店 ＝</b>            ☎(047)470-8311            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善  <b>＝ 舞浜イクスピアリ店 ＝</b>            ☎(047)305-5808            [営業時間] 11時～21時            土・日・祝10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ 南船橋店 ＝</b>            ☎(047)401-0330            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ 柏モディ店 ＝</b>            ☎(04)7168-0215            [営業時間] 10時半～20時</p> <p>MARUZEN &amp; ジュンク堂書店  <b>＝ 渋谷店 ＝</b>            ☎(03)5456-2111            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善  <b>＝ 丸の内本店 ＝</b>            ☎(03)5288-8881            [営業時間] 9時～21時</p> <p>丸善  <b>＝ 日本橋店 ＝</b>            ☎(03)6214-2001            [営業時間] 9時半～20時半</p>	<p>丸善  <b>＝ お茶の水店 ＝</b>            ☎(03)3295-5581            [営業時間]            月～金10時～20時半            土10時～20時            日・祝10時～19時</p> <p>丸善  <b>＝ 多摩センター店 ＝</b>            ☎(042)355-3220            [営業時間] 10時半～21時</p> <p>丸善  <b>＝ 有明ガーデン店 ＝</b>            ☎(03)5962-4180            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善  <b>＝ 有明ワンザ店 ＝</b>            ☎(03)5530-5701            [営業時間] 10時～19時半</p> <p>丸善  <b>＝ メトロ・エム後楽園店 ＝</b>            ☎(03)5684-5130            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善  <b>＝ 新宿京王店 ＝</b>            ☎(03)5321-8327            [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ 池袋本店 ＝</b>            ☎(03)5956-6111            [営業時間] 10時～22時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ プレスセンター店 ＝</b>            ☎(03)3502-2600            [営業時間] 11時～19時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ 大泉学園店 ＝</b>            ☎(03)5947-3955            [営業時間] 10時～22時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ 吉祥寺店 ＝</b>            ☎(0422)28-5333            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 立川高島屋店 ＝</b>            ☎(042)512-9910            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善  <b>＝ 横浜みなとみらい店 ＝</b>            ☎(045)323-9660            [営業時間] 11時～20時</p> <p>丸善  <b>＝ ラゾーナ川崎店 ＝</b>            ☎(044)520-1869            [営業時間] 10時～22時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ 藤沢店 ＝</b>            ☎(0466)52-1211            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ 岡島甲府店 ＝</b>            ☎(055)231-0606            [営業時間] 10時半～19時</p> <p>丸善  <b>＝ 松本店 ＝</b>            ☎(0263)31-8171            [営業時間] 10時～20時</p> <p>MARUZEN &amp; ジュンク堂書店  <b>＝ 新静岡店 ＝</b>            ☎(054)275-2777            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善  <b>＝ 名古屋本店 ＝</b>            ☎(052)238-0320            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善  <b>＝ アピタ知立店 ＝</b>            ☎(0566)91-7170            [営業時間]            月～土10時～21時半            日 9時～21時半</p> <p>丸善  <b>＝ アスナル金山店 ＝</b>            ☎(052)211-9788            [営業時間] 10時～22時</p>
---	---	---	---

営業時間は変更する場合がございます。ご了承ください。

定休日については、お手数をおかけしますが弊社HPまたは直接各店までお問い合わせ下さい。

# ブックブレスター



## 編集後記

「あなたを救った本、おしえて下さい」二〇二二フェアが全国の丸善・ジュンク堂書店で開催中です（五月十五日まで）。春は新しい生活の期待に満ち溢れる季節ですが、同時に不安を感じる時もあるかもしれません。読者アンケートから選ばれた一冊を見つけてみませんか。（可）

## 投稿募集

☆読者の皆様の投稿を募集しています。最近読まれた本の感想文、本にまつわるエッセイ、など本に関するもの。最近読んでおもしろかった本、感動した本、考えさせられた本を教えてください。四〇〇字×六〇〇字程度で、おすすめの本のタイトル、出版社、住所、氏名（ペンネーム可）、年齢、職業を明記の上、お送り下さい。掲載分には二千円の図書カードを差し上げます。なお、原稿はお返しいたしませんのでご了承ください。

☆尚、本誌掲載と同時に、ホームページにも掲載させていただきます。

〒171-0022 東京都豊島区南池袋二―115―15

丸善ジュンク堂書店「書標」編集室係

TEL〇三―15956―161―1

いつも「書標」をご愛読いただきましてありがとうございます。本誌定期購読料は以下の通りです。

定期購読料 年間一六八〇円（送料込）  
現金書留もしくは一四〇円切手十二枚で

お申し込み先

〒171-0022 東京都豊島区南池袋二―115―15

丸善ジュンク堂書店特急係

TEL〇三―15956―161―1

FAX〇三―15956―161―〇〇



QRコード

PC・スマートフォンから  
<https://www.junkudo.co.jp/>



## 矢面に立つ言葉

家矢鳥暁子さん。登壇者すべてのスピーチが素晴らしく、聞くと読みたくなり売りにたくなかった。作り手と売り手の互いの熱意を汲んで、全国の書店員に届けたいという思いで続けている。

大賞受賞作・逢坂冬馬『同志少女よ、敵を撃て』（早川書房・二〇九〇円）は発売当初から話題を呼び、大きな支持を得ていた。ロシアのウクライナ侵攻以降、あまりにも悲しい同時代性を帯びて店頭に並んでおり、どんな発表会になるのか不安もあった。

昨秋のノンフィクション本大賞に続き、本屋大賞発表会の司会を務めさせていただいた。開催に向けた打ち合わせの際、今回は何となく司会者として壇上にいた方がいいような気がした。自分でも信じられないほど会場の装飾作業などが苦手なので、せめて出来ることをしようというのも理由の一つ。書店員は絵や工作も得意な人が多く、不器用って治らないのかなと年々思う。

超発掘本の吉村昭『破船』（新潮文庫・六〇五円）を選んだ未来屋書店の河野寛子さん、新潮文庫編集部の高梨通夫さん、翻訳小説部門ソン・ウォンピョン『三十の反撃』（祥伝社・一七六〇円）の翻訳

ロシアの中にある侵略戦争に反対する「小さな声」の数々を支持するという強い意志とともに、物語に描いた少女を現在に重ね合わせ「絶望することはやめます」と畳み掛けるように逢坂さんは言葉を放つ。小説に込められた思いが、伝わらないのではないかとという心配はその場で消えた。追真のスピーチ全文が新聞サイトに載るとするのも本屋大賞十九回目

にして初めてのことだと思う。

昨年のノンフィクション本大賞『海をあげる』（筑摩書房・一七六〇円）の著者・上間陽子さんのスピーチも全文が主催のヤフーニュースサイトに掲載され、筑摩書房が作成したリーフレットが全国の書店で配布された。「私たちが周りの人になんかに心を砕いてもどうにもならない地平が、政治によって権力によって現れてしまうのだ」と壮絶な問題を小さな娘に語りかけるような柔らかい声で語っていた。

どのスピーチも突き付けられた現実への悲しみと怒り、今後への決意に満ちていて、人間を疑い、再び信じようと立ち上がる言葉を全身で浴びた瞬間だった。多くの方々のご協力を得て、このような場を持つことができた。

作者が振り絞って述べる思いに応える仕事を店頭でもしていきたいと思う。

（徳）

「書標 ほんのしるべ」 第521号

編集・発行人 中川 清 貴

発行所 ㈱丸善ジュンク堂書店

印刷所 ㈱七 旺 社

二〇二三年五月五日発行 頒価五十円（本体四十六円）

〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町十一番二十四号 ニューワールドビルディング

〒653-0012 神戸市長田区二番町四丁目二十七番地

「書標 ほんのしるべ」昭和61年7月15日第三種郵便物認可  
2022年5月5日発行（毎月1回5日発行 通巻第521号）

MARUZEN JUNKUDO × サマリーポケット

預けた本は一覧で管理。タイトルや作者もデータ登録！

文庫本なら1箱に130冊入ります！

サイズ：幅44cm × 奥行33cm × 高さ24cm



丸善ジュンク堂書店のお客様限定プラン

3箱保管プラン | 通常月額 1,320円 → 25%OFF 990円

5箱保管プラン | 通常月額 2,200円 → 30%OFF 1,540円

詳細はこちらから



<https://spkt.jp/maruzen>

※ バーコードを読み込んで画像やタイトルをデータ登録します。バーコードがないもの等は適宜まとめて写真を撮影します。  
※ 価格は全て税込表示です。  
※ 本プランの対象となるのは、「サマリーポケット」に新規登録される方に限ります。  
※ 本プランはサービス利用開始後24ヶ月間有効です。（翌月以降は通常料金となります。）

ご利用方法は簡単4ステップ



1 専用サイトで申し込み



2 届いたボックスに本を詰めて送るだけ



3 預けたものはPC・スマホで管理



4 使いたい時、最短翌日に取り出せる

本の保管場所に悩む、すべての方へ

ジュンク堂書店  
淳久堂書店

MARUZEN

頒価 五十円（本体 四十六円）